

【3日目/5月24日(つづき)】

竹富島は平坦で小さな島で、隆起サンゴ礁島嶼独特の平坦な島なので、レンタサイクルや徒歩でも数時間で回れます。しかし与那国島は、古い堆積岩の地質で起伏が大きく、更に周囲も 30km 近くあるので、車でないと無理です。路線バスもあり「無料」なのですが、短い滞在時間を有効に使うために、レンタカーを使うことにしました。



小さな島ですがレンタカーを運営している会社は数社あります。ターミナルから遠い店の場合、レンタカー会社への往復はマイクロになります。しかし私は、離陸時刻ぎりぎりまで島内を見たかったので、空港から歩いて行けるレンタカー会社に予約を入れました。



レンタカー会社はすぐにわかりました。空港の近く...というよりも空港の向かい側に事務所がありました。プレハブの仮設事務所って感じですが、接客はしっかりしていて、何も心配はなかったです。料金は6時間で 6,500 円でしたが、「ガソリン代込み」というところが嬉しいですね。離島はガソリン単価が高く、

レギュラーでも 1L205 円~210 円もするからです。ハイオクガソリンは販売していないそうです。そもそもスタンドそのものがほとんどありません。



事務所の脇にはヤシの木がありました。さすがは年間平均気温 24°C の「亜熱帯の島」ですね。



ここでも「全ドライブ」の全面展望を記録するために、ダッシュボードにビデオカメラを設置しました。車を傷つけないように、台座の裏面にはフェルトを貼ってあります。



石垣島には「国道」がありますが、石垣よりの西の離島にはありません。県道 216 号線を「西に」向かいます。旅行者の誰もがそうするように、まずは「日本最西端の地」を目指すためです。与那国島を訪れる観光客で、「日本最西端の地」を訪れない人はまずいないでしょう。



やがて「最西端の地」の灯台が見えてきました。「Dr. コトー診療所」の映画の中でも何度か登場する岬です。「最西端の地」にふさわしい風格を持った岬です。



「西崎」と書いて「いりざき」と読みます。沖縄では「西」を「いり」と読みます。「太陽が入る方角」という意味です。「西表島」も「にしおもてじま」ではなく「いりおもてじま」と読みますね。同じように「東＝あがり（上がり）」「南＝はえ／へえ」と言います。ややこしいのが「北」で「にし」と言います。沖縄の地名や姓には、こうした読み方のものが多いです。写真の右のポールは「GPS 基準点」です。



「日本最西端のトイレ」がある「日本最西端の駐車場」から、徒歩で少し坂を上ると、いよいよ日本最西端の地です。こういう劇的な瞬間というのは、意外とあっさり訪れるものです。



私は小学生の時、学校で配布された「帝国書院の地図帳」が好きで、休み時間もよく眺めていました。友達とよく「地名探しクイズ」をしたものです。その中に「日本の東西南北の端」という図があって、特に興味をそそられました。子ども心に「一番西の与那国島に行ってみたいなあ」と思いました。もちろん当時、小学生にとっては「霞のかかった地の果て」で、本当にそういう島が存在するのだろうか？とすら思ったものです。しかし今まさに五十年目にして、還暦目前にその地に立つことが実現しました。



石碑には「日本最西端之地」ではなく「日本国最西端之地」と刻まれています。「日本国」という語が重要なのだと思いました。

最東端「南鳥島（北緯 24 度 16 分 59 秒 東経 153 度 59 分 11 秒）」は自衛隊の管轄で一般国民は上陸できません。最北端「択捉島カモイワッカ岬（北緯 45 度 33 分 28 秒 東経 148 度 45 分 14 秒）」は領土問題で現在訪問不可能、恐らく当分はいけなんでしょう。最南端「沖の鳥島（北緯 20 度 25 分 31 秒 東経 136 度 4 分 11 秒）」はもともと小さな岩礁で上陸禁止、船で近づくことすら容易ではありません。つまり我が国の東西南北の 4 つの端の中で、一般の国民が自由に行けるのは、ここ「与那国島西崎（北緯 24 度 27 分 05 秒 東経 122 度 55 分 57 秒）」だけなのです。